

令和元年度（第 8 事業年度） 事業報告書

平成 31 年 4 月 1 日から
令和 2 年 3 月 31 日まで

目 次

要 旨	1
I 書道振興事業（公益目的事業 1）	2
II 書道育成事業（公益目的事業 2）	7
III 物品の販売事業（収益事業 1）	19
IV 管理部門	20



公益財団法人 晴 嵐 館

令和元年度事業報告書

要 旨

公益財団法人へ移行し 8 年目の事業年度が終了した。

令和元年度は、公益法人として、書道教育者の育成と、民間の書道教育力を通じた書道文化の振興と発展を目指し、次の 2 つの基本方針により事業を実施した。その活動の概況を以下報告する。

基本方針 1・・・書道文化の振興発展

大池晴嵐の書業を顕彰し、その作品の制作の場となった敷地庭園を公開するとともに、書道関係資料の収集保存、調査研究、展示公開を行なうことにより、書道文化の振興発展に努める。

◇大池晴嵐（1899～1977）は、書家として、高等学校書道教員として、書道文化の振興発展をはかることを提唱していた。昭和 43 年、後継の嗣子青山楓谷を亡くしてより、書道の後進の育成と自らの作品の散逸を憂い、昭和 46 年、財団法人の認可を得て「晴嵐館」を設立。作品を保管展示できる社会教育施設として開館した。昭和 52 年、晴嵐没後は、晴嵐の作品を中心に、地域書家作品、文房四宝等を鋭意収集し展示公開することで、書道文化の振興発展に努めてきた。

◇～大池晴嵐の芸術観と晴嵐館設立の経緯～大池晴嵐の残した書作品は、書の古典に裏付けられた造形と独特かつ多様な線質が特徴であり、かつ庭園の中に見られる自然と人工の調和を作品の内面に表現している。そのため、晴嵐の作品等を鑑賞すると同時に、日々の創作のもととなった芸術の小宇宙である庭園を散策することによって、何よりも晴嵐の芸術観をより深く感じることができる。この晴嵐の芸術観を味わうことこそ晴嵐館が書道作品を展示するゆえんである。私たちの暮らしの中で、美しいものから受ける感動は生活に潤いを与える。書道作品や庭園の公開を通じて、多くの人が書道の素晴らしさを知り、地域の文化的向上を図るために、昭和 46 年、財団法人晴嵐館は設立された。

基本方針 2・・・書道教育者の育成

書道に関する講習会、資格認定、コンクール等を行い、書道に携わる者を育成し、もって書道芸術および書写道教育の発展を図る。

◇大池晴嵐の教育観は、「民」による書道に対する高い知識と技能をもって、「公」の学校書写書道教育の補完をはかることであった。昭和 46 年に財団法人晴嵐館設立後はこの教育観により書道教育者の育成事業を行ってきたが、平成 24 年 4 月に公益財団法人晴嵐館として移行認定されたからには、これからも「民」における伝達により脈々と継承しなければならない。その意志を継ぎ、次代を担う人格・識見の高い指導者を育成することが、書写書道教育の発展に寄与することになると信じる。

I 書道振興事業（公益目的事業1）

大池晴嵐の書道作品をはじめとする書画およびその関連資料等を収集、保存、展示公開するとともに、大池晴嵐の作品構想のインスピレーションの場である庭園を整備して一般に公開する事業である。

収蔵する作品資料は、大池晴嵐の作品のほか、大池晴嵐の師であった豊道春海、伊賀五峰をはじめ、村瀬太乙、青山杉雨、神谷葵水、高木大宇など地域の書道家、中国作家の書画作品等。関連資料等としては、遺品、資料、写真のほか、筆、墨、硯、紙等の書道用具、拓本、古美術品、複製品等がある。

1. 収集、保存および調査研究

(1) 作品等の展示資料収集

大池晴嵐の作品資料のほか、郷土の書家作品等、書道に関する文献資料の収集をおこなった。令和元年度の収集品は次のとおり。

- 大池晴嵐作品 2 点（軸 個人からの寄贈）「茶話坐忘機」「五言二句 静處」
- 大池晴嵐折帖 6 点（折帖手本 個人からの寄贈）「楷書蘭亭後序」「行書蘭亭後序」「草書蘭亭後序」「書翰文上」「書翰文下」「行書客旅七絶」
- 大池晴嵐資料 2 点（短冊 個人からの寄贈）「老鶯も」「蜂子で呑む」
- 村瀬太乙資料 1 点（和綴 個人からの寄贈）「太乙先生遺稿 己巳」
- 豆子甲水之作品 1 点（軸 個人からの寄贈）「李白句」
- 吉田桂秋作品 1 点（まくり 軸装 個人からの寄贈）「游神」
- 吉田桂秋資料 1 点（小色紙 個人からの寄贈）「みちのべに」
- 山口耕賢資料 1 点（書簡 個人からの寄贈）「新田双峰氏宛書簡 小生」

(2) 作品資料等の整理・表装・補修・登録・評価

未整理、未表装、マクリ等の作品の表装、補修等をおこない登録評価した。

- 大池晴嵐作品 3 点（軸）「因果」「不會」「賊不打貧兒家」
- 小川南流作品 2 点（軸）「黄庭堅句 春風」「杜審言句 梅花」
- 梶田東崖作品 1 点（軸）「邪正賞罰」
- 渡邊碧洋作品 1 点（軸）「さざなみや」

(3) 作品等の保存・保管

収蔵作品などは、晴嵐館本館 1 階および 2 階の収蔵庫に保存。高額の図書資料は、鍊心講堂の書庫に保管。湿度や空調等に配慮し、湿度の高い日には除湿機を運転し保全をはかった。

(4) 調査研究活動

① 収集作品および資料に関する基礎的研究

収集した作品資料等の基礎的調査研究を行い、展示室ならびに 8 月に名古屋市博物館ギャラリーで開催の中道書法展における展示に反映した。

② 大池晴嵐作品等の所蔵調査

大池晴嵐の作品は、公共施設あるいは個人等により各所に所蔵されている。作品の所蔵データ等を把握するために、調査を継続している。調査は機関誌ならびに展覧会会場で配布する目録等で広く一般に呼びかけ、令和元年度の調査数は 5 件あった。

③ 博物館の展示運営等に関する調査研究

昭和 59 年から愛知県博物館協会に加盟している。博物館協会では年間を通じて様々な研修会が行われており、関係の研修会等に参加することで、収集保存、展示公開、教育普及などの博物館活動の専門的技術的技術の開発と博物館相互の交流をはかり、展示公開の質を向上させることにつとめた。以下の研修会に学芸員の資格ある者、ならびに学芸員補を派遣した。

- 東海三県博物館協会研究交流会

日 時 令和元年 11 月 6 日 (水) 午前 10 時～午後 5 時

場 所 本居宣長記念館、斎宮歴史博物館 等

テーマ 「博物館と観光のちょうどいい関係」

派 遣 1 名

- 博物館職員等研修会

日 時 令和元年 12 月 12 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分

場 所 愛知県芸術文化センター12 階 アートスペース A

テーマ 「博物館⇄教育機関 連携の取り組み」

派 遣 1 名

- ④ 博物館視察

各地の美術館博物館への視察、有名美術館博物館内覧会・レセプション等への参加をすることにより、美術館展示の運営について質の向上をはかった。

- 「印象派からその先へ」開会式・内覧会

日 時 平成 31 年 4 月 8 日 (月)

場 所 名古屋市美術館

派 遣 1 名

- 「発掘された日本列島 尾張の城と城下町」開会式・内覧会

日 時 令和元年 11 月 15 日 (金) 午後 1 時～5 時

場 所 名古屋市博物館

派 遣 1 名

2. 展示、公開、貸出および刊行

公益財団法人晴嵐館が所有する「晴嵐館本館」(江南市大海道町青木 22 番地)は、鉄筋コンクリート造り 2 階建ての美術館施設となっている(建築面積 99.99 平米、建物 1 階 86.22 平米、建物 2 階 83.70 平米 うち、展示室 (1 階 50 平米・2 階 54 平米)、収蔵庫 (1 階 13.5 平米・2 階 9.3 平米)、研究作業室 (1 階 6 平米))。

収蔵品は、大池晴嵐作品等 358 点 (うち基本財産作品 39 点)、日本作家作品 140 点 (うち基本財産作品 3 点)、中国作家作品 13 点 (うち基本財産作品 2 点)、拓本・資料 52 点、合計 563 点となっている。

展示公開の期間は年間 300 日以上 (毎週木曜日並びに展示替え期間中を除く)。令和元年度晴嵐館展示室を訪れた来館者は、のべ入場者数約 350 名であった (うち有料 257 名 庭園の観覧のみの者は除く)。企画展・常設展の案内や収蔵品についての広報は、ホームページおよび機関紙『書芸中道』(毎月約 550 部、24 ページ)、館報等により周知している。

庭園の公開は、大池晴嵐が作庭した庭園を一般に公開するものである。晴嵐館本館に隣接する庭は、近くを清流が流れ起伏ある山林を切り開き、閑静なこの地を終の棲家とした晴嵐が、書道作品の発想・テーマ・レイアウトなどを喚起する重要な空間として位置づけて作庭した。木立の生え方、庭石の配置は、書道の作品の制作に反映され、書のリズム、運筆の呼吸はもとより、字配り、字形に大いなるヒントを与えてくれる。現在は枯山水となっているが、晴嵐の生前には、水を満面とたたえた深い池と浅い池、それをつなぐ水路

や水の湧き出す泉からの水流が池に流れ込む構造となっていた。水位が下がり周囲の環境も変わり今は水を湛えることはできないが、当時の面影を残す造りを保全している。この庭園は、一般市民の憩いの場であり、作品制作のための思索を体感する場でもある。

これらの事業に関連して、作品の貸し出し、収蔵資料目録の刊行、出版等をおこなう。

(1) 作品等展示公開

晴嵐館展示室等において常設展示、企画展示、特別展示を行い、書道の普及振興に努める。観覧料は1人300円（保護者または指導者同伴の小中学生は入場無料。20名以上の団体は2割引き。庭園の観覧のみの場合は無料）。

① 常設展示

● 「晴嵐の書業」

晴嵐館本館1階の展示室において、

大池晴嵐書業78年の変遷を、写真、遺品を通して紹介。少年時代、東京時代の数少ない資料と、日展時代、晩年の三猿庵時代の書業を常設展示した。愛用の書道用具を入れ替え展示した。

② 企画展示

● 「晴嵐の書」～余白の表現～（4月12日～9月25日）

令和元年度前半期の展示は、大池晴嵐（昭和52年没）作品の中から、余白を活かした表現の作品10点を展示。有料入場者数は119名であった。展示作品は次のとおり。

1. 燦（額） 昭和45年（72歳） 日本万国博覧会
2. 無稱光（軸） 昭和50年（77歳） 喜寿個展
3. 麟鳳（二曲屏風） 昭和50年（77歳） 第22回 東書芸展
4. 鈍鳥逆風（額） 昭和51年（78歳） 第1回 読売書展
5. 汲古（軸） 昭和29年（56歳）
6. 彩鳳舞丹霄（額） 昭和43年（70歳） 古稀個展
7. 呉鎮詩 題竹（軸）
8. 余呂古飛（軸） 昭和47年（74歳）
9. 身閑なれば（軸）
10. 壽（まくり） 昭和50年（77歳） 喜寿祝賀会揮毫 1. 太乙詩 白露（軸）

● 「晴嵐の書」～連綿の表現～（10月11日～2年3月25日）

令和元年度後半期の展示は、大池晴嵐作品の中から、文字連綿を表現した作品11点を展示。有料入場者数は104名であった。展示作品は次のとおり。

○＝12月28日まで ◎＝1月5日から

1. 寄友（屏風） 昭和31年（58歳） 第12回日展
2. 心與白雲閑（軸） 昭和34年（61歳） 還暦作品
3. 廣瀬旭莊詩 七言絶句（額） 昭和34年（61歳） 第4回現代書道20人展
4. 福者内 鬼者外（対聯） 昭和40年（67歳） 第10回現代書道20人展
5. 良寛詩（額） 昭和45年（72歳） 第17回東書芸展
6. 畫蛇（額） 昭和48年（75歳） 第25回毎日書道展
7. 李白詩 乗船（軸） 昭和51年（78歳） 「書芸中道」昭和51年4月号掲載手本
8. 黄梁夢（額） 昭和52年（79歳） 第12回瑞雲書道会展
9. 良寛詩 筆硯（軸）
10. 壽（まくり）○ 昭和50年（77歳） 喜寿祝賀会揮毫
11. 山（まくり）◎ 昭和47年（74歳） 東海銀行本店展示

③ 特別展示

● 「郷土の書家V」（31年3月29日～4月10日）

30年度から引き続きの春季特別展示は、郷土出身の書家11名12点を展示。4月1日からの有料入場者数は21名であった。展示作品は次のとおり。

1. 青山楓谷 虚 (額)
 2. 伊賀五峰 七絶 村居雜吟 (軸)
 3. 伊藤穿石 着物染原稿 (紙)
 4. 小川南流 荊叔詩 (軸) 昭和45年 『書藝中道』昭和45年6月号掲載
 5. 梶田東崖 無事日斯長 (軸) 昭和45年 『書藝中道』昭和45年7月号掲載
 6. 神谷葵水 禮尚往來 (軸) 平成15年 第20回 中道書法展
 7. 豆子甲水之 柳烟梅雪繞青樓 (軸) 昭和46年 『書藝中道』昭和46年2月号掲載
 8. 高木大宇 學而不厭 (軸) 平成3年
 9. 高木大宇 李白詩 (軸) 平成3年
 10. 成瀬映山 子規の句 (額)
 11. 服部承風 自詠詩 (額) 昭和62年 第4回 中道書法展
 12. 渡邊碧洋 古池や (軸) 昭和45年 『書藝中道』昭和45年6月号掲載
- 「台北故宮博物院の書画Ⅱ」(複製展示)(9月27日～10月9日)

秋季特別展示は、台湾故宮博物院に収蔵の書画作品(複製)を展示。複製とはいえ、中国歴代王朝が継承した名筆・名画13点。有料入場者数は5名であった。展示作品は次のとおり。

- | | | |
|----------------------|-----|-------|
| 1. 王羲之 快雪時晴帖 (冊) | 唐時代 | 二玄社複製 |
| 2. 文徵明 醉翁亭記 (軸) | 明時代 | 〃 |
| 3. 董其昌 杜甫謁玄元皇帝廟詩 (軸) | 明時代 | 〃 |
| 4. 郭熙 早春図 (軸) | 宋時代 | 〃 |
| 5. 倪瓚 容膝齋図 (軸) | 元時代 | 〃 |
| 6. 黄公望 富春山居図 (巻) | 元時代 | 〃 |
| 7. 王紱 山亭文会図 (軸) | 明時代 | 〃 |
| 8. 仇英 仙山樓閣図 (軸) | 明時代 | 〃 |
| 9. 董其昌 葑涇訪古図 (軸) | 明時代 | 〃 |
| 10. 王翬 溪山紅樹図 (軸) | 清時代 | 〃 |
| 11. 恽寿平 仿倪瓚古木叢篁図 (軸) | 清時代 | 〃 |
| 12. 巨然 層巖叢樹図 (軸) | 五代 | 〃 |
| 13. 郎世寧 仙萼長春図 (葉) | 清時代 | 〃 |

● 「郷土の書家Ⅵ」(2年3月27日～4月8日)

郷土出身あるいはゆかりの書家作品14点を展示。3月31日までの有料入場者数は8名であった。展示作品は次のとおり。

1. 青山楓谷 垂綸 (軸) 昭和43年
2. 青山楓谷 風月心 (軸)
3. 伊賀五峰 七言絶句 齡過 (軸) 昭和9年
4. 小川南流 黄庭堅句 春風 (軸) 昭和42年 『中道』昭和42年1月号掲載
5. 小川南流 杜審言句 梅花 (軸) 昭和42年 『中道』昭和42年3月号掲載
6. 梶田東崖 邪正 賞罰 (軸) 昭和45年 『書藝中道』昭和45年6月号掲載
7. 神谷葵水 僊喬 (軸) 平成16年
8. 豆子甲水之 李白句 落日 (軸)
9. 高木大宇 樂天安命 (軸) 平成3年
10. 高木大宇 孔羨碑 (軸) 平成3年
11. 村瀬太乙 源仲國題畫詩 (軸)

12. 山口耕賢 書簡（巻紙） 昭和 55 年
13. 吉田桂秋 游神（巻） 昭和 27 年
14. 吉田桂秋 みちのべに（小色紙） 昭和 27 年

（イ） 庭園の公開

晴嵐館の開放的な庭園には、マツ、サクラ、カエデなどの樹木のほか、庭石、灯籠などが配置され、池には鯉が。晴嵐の筆による筆塚碑、道標、門標等を見ることがもできる。庭園は常時無料開放し、市民の憩いの場として四季折々自由に散策することができる。「三猿庵」の名にちなみ、地元有名彫塑作家作の金の猿を置き、インスタ映えスポットとなっている。

春はミツマタ、サンシュ、梅、モクレンが香り、桜、モッコウバラ、ハナミズキ、芝桜、矢車草、デイジー、牡丹、春蘭、ツツジ、オガタマ、サツキ、ミヤコワスレ、タイサンボクと続く。夏には、アマドコロ、アジサイ、百日紅が見られ、ハスが 7～8 月にかけて開花。秋は、ドングリ、鑑賞用柿の実がなり、イタヤ楓、イロハもみじが色とりどりに、冬は山茶花、水仙。書道にちなんで「筆柿」「タラヨウ」「ミツマタ」がある。木々には名称がわかるように名札を筆書きでつけている。

近隣は、水田で田植えの風景、オタマジャクシが泳ぎ、春はウグイス、野鳥の声。初夏にはカエル、シラサギ。夏はセミ、11 月にはカモなどの渡り鳥。庭と調和し、鍊心講堂から眺めることができる。

平成 27 年度末、「平和を愛好するところに書の道が存する」という大池晴嵐の書道観に基づき、平和と命の尊さを学ぶ「柿の木プロジェクト」による長崎の被爆柿二世の株を、道を隔てた駐車場側（采薇苑）に植樹。4 年が経過し、本年令和元年秋には初めて結実した。

フェイスブックにより、書道ならびに庭園に関する情報を発信し、毎日 50 名ほどの閲覧がある。

（3） 作品等の貸出

大池晴嵐ほかの作品・資料を広く一般に公開するため、作品等の貸し出しおこなう。令和元年度の貸し出しは無かった。

（4） 収蔵資料・展示資料目録、書道文化関連資料等の刊行

- 企画展示・特別展示フォトブック 48 部
- 大池晴嵐『訪中日誌』 300 部

Ⅱ 書道育成事業（公益目的事業2）

書道芸術は、常に新しい書風の確立を目指さなければその進展発展はない。現代の書道界の最新の動向をふまえ、社会のニーズに合った作風をめざすために、日夜研究研鑽をするものであり、そのために、温故知新、常に古典書法をふまえた新しい書道を探求するものである。本事業は書道に関心を持つ学生（幼年～高校生）から一般の方々に対し、書道芸術ならびに書写書道教育に関する様々なセミナー事業をおこなうことにより、書に携わる者の育成を図り、もって書道文化および書道芸術の振興に寄与することを目的とする。

これらの事業は、いずれも書道に携わる環境を整え、書道に携わる者を支援し、育成することを通じて、書道芸術および書写道教育の発展を図るものである。

財源は、原則参加費。不足する場合は、他の事業収入のほか、記念事業積立資産、特定資産利息収入、寄付金収入、会費収入を事業の原資に充当する。

1. 書道教育者の育成、書道の資格を認定する事業

書道の教育者を育成するため、教室・講習会、書道の資格認定をする競書、検定試験など、入門者から教育者へと進んでいくことのできるよう、次の様々なプログラムを用意している。書写書道を愛好する学生（幼年～高校生）・一般の人々を対象としている。

(1) セミナー事業

① 毛筆教室

日 時 毎月3回 土曜日 午前10時～12時

場 所 晴嵐館 錬心講堂

指 導 日展会友 大池青岑氏

受講のべ人数 94名

書道を愛好する初心者から上級者までを対象に、漢字、かなの書法を幅広く研究し、書道教育者の育成を図った。指導は書道界で活躍する専門の作家による。教材は、本法人発行の「書芸中道」のほか、本法人所蔵の図書資料を使用。毎月の課題を中心とし、展覧会出品作品、検定試験の受験作品等の批正添削がおこなわれた。

令和元年度開講日は、4月7・20・27日、5月4・18・26日、6月8・15・22・29日、7月6・20日、8月3・10・17日、9月7・14・28日、10月5・19・26日、11月3・9・24日、12月7・14・21日、1月4・11・25日、2月1・8・15日、3月7・14・21・28日（土曜開講できなかつたときは日曜日に補講）の計37回。受講料は月3回4000円（展示室入館料300円を含む）。作品発表の場として3月に作品展を開催の予定だったが、4月に延期した。

② 篆刻教室

日 時 毎月1回第3月曜日午前10時～12時

場 所 晴嵐館 錬心講堂

指 導 日展会員 岡野楠亭氏

受講のべ人数 105名

篆刻とは書画作品に押捺する印章を刻すことである。印章の歴史は古く、わが国においても奈良の正倉院文書にも押捺されており、日本文化の一つと言える。中国明時代から芸術的性格を帯び、篆刻は書道芸術の一分野として重要な位置を占めている。

書道を愛好し篆刻に興味関心を持つ者を対象に、書画作品に押捺する印章の制作法を研究した。主に印稿作りと刻法を学習。各自思い思いのことばを方寸の石印材に刻し、印章を仕上げた。篆刻用具一式が必要。指導は書道界で活躍する専門の篆刻家による。

令和元年度は次の日程で総計11回開催した。4月15日、5月20日、6月17日、7月

22日、9月9日、10月28日、11月18日、12月16日、1月20日、2月17日、3月16日。受講料は月1回3000円（展示室入館料300円を含む）。作品発表の場として、3月に作品展を開催の予定だったが、4月に延期した。

③ 書道教育講習会

書道教育講習会は、年1～2回、晴嵐館錬心講堂において、書道教育に関する実技を中心とした講習会である。指導はその道の専門家による。講習内容はジャンルに偏ることなく毎年テーマを決め、漢字・かな・漢字かなまじり書など、幅広い分野に及ぶ。令和元年度の開催は下記のとおり。受講料は1000円（展示室入館料300円を含む）。

● 小作品制作シリーズ「かなへのいざない」

日時 令和元年9月6日（金）午後1時～3時

場所 晴嵐館 錬心講堂

講師 日展会友 山本雅月氏

参加者 12名

内容 かなの連綿や散らし書きの形式など、かな書道の楽しみ方を学んだ

④ 毛筆・硬筆錬成会

錬成会は、書道の指導者として師範位取得を目指す人々を対象に、人材育成、資質向上を目的とする高度な技術的研修会。検定試験受験上の心得、スキルアップをはかるため、受験課題の説明並びに実技書道教育に関する実技指導と助言をするものである。受講者には受講者証を授与。指導は、師範位の認定ならびに手本を揮毫する硬筆・毛筆の専門書家による。秋春の2回開催した。参加料は3000円。また、受験についての質問などの相談を受け付けた。相談料は無料。

● 秋季毛筆・硬筆錬成会・受験相談会

日時 令和元年9月6日（金）午前10時～12時

場所 晴嵐館 錬心講堂

講師 大池青岑氏、新田双桃氏、倉田朝華氏

参加者 8名

● 春季毛筆・硬筆錬成会・受験相談会

日時 令和2年3月29日（日）午後1時～3時

場所 晴嵐館 錬心講堂

講師 大池青岑氏、新田双桃氏、倉田朝華氏

参加者 8名

⑤ 文房四宝講習会

文房四宝講習会は、書道実技に必要な用具にかかわる講習会を開催。講習内容は、筆・墨・硯・紙などの書道用具ばかりでなく、書写書道全般にわたる実用的理論的な専門知識を得ることができるよう、多岐にわたる。指導はその道の専門家による。受講料は無料。

令和2年3月29日午前に開催する予定だったが、新型コロナウイルスの影響により、延期することとした。

⑥ 書道師範研修会・交流会

● 師範会

晴嵐館認定書道師範を対象の会合。令和2年3月29日（日）、晴嵐館錬心講堂において令和元年度合格の新師範15名への認定証授与式をはじめ、師範選抜書展などの年間スケジュールの確認、技術的側面における師範相互の交流をはかる予定だったが、新型コロナウイルスの影響により、延期することとした。

⑦ 美術作品鑑賞会

書画等作品鑑賞による鑑識眼および技能を養うため、美術館・博物館で開催の美術展示

の鑑賞を促進した。鑑賞希望者を広く一般に募集し、「カラバッジョ展」「日展」の観覧券を頒布した。募集方法は館報による。

⑧ 作品研究会

書道の全国公募展の作品制作を目指す者に、制作のアドバイスをを行い、資質向上を図った。参加料は無料。

- 中日書道展作品研究会 平成 31 年 4 月 7・14・21 日 午前 11 時～12 時
- 読売書法展作品研究会 令和元年 5 月 19 日、6 月 2・23・30 日 午前 11 時～12 時
- 日展作品研究会 令和元年 9 月 1・15・22 日 午前 11 時～12 時
- 謙慎書道展作品研究会 令和 2 年 1 月 12・26 日 午前 11 時～12 時

⑨ 相談会

- 書道教育相談

晴嵐館が主催する競書、検定試験、展覧会のほか、教室運営、技術学術等に関する相談を受け付けた。令和元年度は書道教育に関する 11 件の相談が寄せられ、電話等により対応した。

(2) 書道の資格認定

書道の資格認定として、「競書」と「検定試験」を行った。

競書とは、毎月、定められた同一の課題を中心に作品制作の技能を競うものである。学生は毎月毛筆 2 点、硬筆 2 点の各学年別の課題、一般（毛筆月 7 点、硬筆月 3 点）は、段級レベル別の課題により作品を出品する。毎月の審査により優秀と認められた作品は級位昇格し、機関誌に写真版掲載し、一部は錬心講堂に展示する。課題手本の揮毫および作品の審査は、本館委嘱の書道専門家による。なお、競書の成績を発表する機関誌には、成績表のほかに、書道の名品名跡の紹介、毎月の作品課題、競書の成績、優秀作品の掲載、書道・書道教育に関する各種情報の提供をしている。

検定試験は、年 2 回（春季・秋季）実施し、受験作品のレベルにより、段級位を認定し認定証を発行する。審査にあたっては、書道の専門家（一定の資格を有し、作品の優劣の判断ができると認められた者）による。一般は 10 級からはじまり、最高位として「師範」（漢字・かな・硬筆）の資格を付与し、晴嵐館錬心講堂において師範証授与式（3 月）をおこなう。学生部は 10 級～1 級、さらには準初段から八段までの認定をおこない、特に優秀と認められる者には、「準特待生」「特待生」の資格を付与するものである。

① 競書

- 一般対象 硬筆 毎月 1 回月末作品締め切り
- 学生対象 硬筆 毎月 1 回月末作品締め切り
- 一般対象 毛筆 毎月 1 回月末作品締め切り
- 学生対象 毛筆 毎月 1 回月末作品締め切り

学生部の学年別段級位分布は次のとおり

- 硬筆（令和 2 年 3 月現在）

ペン	幼年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
10 級	9	10	7	3	6	2	2	0	2	0	0	0	0	41
9 級	7	17	11	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	43
8 級	6	20	17	22	6	5	2	6	3	0	0	0	0	87
7 級	4	25	14	10	12	4	4	0	1	0	1	0	0	75
6 級	1	13	14	8	13	7	4	1	2	2	1	0	0	66
5 級	4	12	11	18	10	8	4	2	0	0	0	0	0	69

4級	0	5	15	19	9	7	5	1	0	0	0	0	0	61
3級	0	3	7	18	11	6	4	1	2	0	0	0	0	52
2級	0	1	15	24	24	8	7	2	2	0	0	0	0	83
1級	0	6	13	25	23	24	6	3	1	0	0	0	0	101
準初段	0	0	13	14	22	19	17	1	1	1	0	1	0	89
初段	0	0	2	13	22	16	13	5	1	0	0	1	0	73
準二段	0	0	0	13	10	11	11	1	0	1	0	1	1	49
二段	0	0	0	7	24	10	12	5	4	1	1	0	0	64
準三段	0	0	0	4	14	10	9	2	3	0	0	0	0	42
三段	0	0	0	0	8	6	9	10	0	2	0	0	0	35
準四段	0	0	0	0	3	13	9	4	5	2	0	0	0	36
四段	0	0	0	0	0	5	18	8	6	1	0	0	0	38
準五段	0	0	0	0	0	6	15	5	8	2	0	0	0	36
五段	0	0	0	0	0	2	10	10	2	2	1	0	0	27
準六段	0	0	0	0	0	0	5	5	3	1	1	0	0	15
六段	0	0	0	0	0	1	6	9	5	2	1	1	0	25
準七段	0	0	0	0	0	0	4	11	2	5	2	0	0	24
七段	0	0	0	0	0	0	0	5	9	5	0	1	0	20
準八段	0	0	0	0	0	0	0	5	1	1	2	1	0	10
八段	0	0	0	0	0	0	0	4	2	8	0	0	0	14
準待生	0	0	0	0	0	0	0	1	2	10	4	1	0	18
待生	0	0	0	0	0	0	0	0	3	8	8	6	6	31
合計	31	112	139	200	220	173	176	107	70	54	22	13	7	1324

● 毛筆（令和2年3月現在）

毛筆	幼年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
10級	6	17	12	3	6	1	2	0	2	0	0	0	0	49
9級	7	13	14	10	7	4	0	0	0	0	0	0	0	55
8級	5	27	26	18	17	5	1	3	3	0	0	0	0	105
7級	6	33	18	34	7	4	6	2	1	1	1	0	0	113
6級	1	13	32	28	26	11	3	2	1	1	1	0	0	119
5級	1	9	30	26	14	10	3	3	1	0	0	0	0	97
4級	1	7	23	27	30	10	7	3	0	0	0	0	0	108
3級	0	4	13	27	33	12	8	3	0	0	0	0	1	101
2級	0	3	23	36	39	13	12	5	2	0	1	0	0	134
1級	0	7	26	34	35	29	13	0	2	2	2	1	0	151
準初段	0	0	13	18	37	28	18	3	1	1	0	1	0	120
初段	0	0	11	26	40	23	27	10	1	0	1	0	0	139
準二段	0	0	1	20	25	28	28	6	4	1	0	1	1	115
二段	0	0	0	7	20	19	27	13	7	0	0	0	0	93
準三段	0	0	0	2	29	21	25	16	8	0	1	0	0	102
三段	0	0	0	1	6	17	20	20	9	0	0	2	0	75
準四段	0	0	0	0	1	12	15	16	6	3	0	0	0	53

四段	0	0	0	0	1	8	25	14	5	2	0	0	0	55
準五段	0	0	0	0	1	4	16	10	12	3	0	0	0	46
五段	0	0	0	0	0	1	7	10	16	7	1	0	0	42
準六段	0	0	0	0	0	0	5	10	8	5	0	0	0	28
六段	0	0	0	0	0	0	3	16	8	6	2	0	0	35
準七段	0	0	0	0	0	0	3	3	6	9	4	0	0	25
七段	0	0	0	0	0	1	3	9	4	7	7	2	0	33
準八段	0	0	0	0	0	0	0	1	5	9	3	1	0	19
八段	0	0	0	0	0	0	0	2	2	10	6	3	0	23
準特待生	0	0	0	0	0	0	0	2	7	10	8	7	1	35
特待生	0	0	0	0	0	0	0	0	5	12	9	6	7	39
合計	27	133	242	317	374	261	277	182	126	89	47	24	10	2109

② 検定試験・師範試験

● 一般毛筆・硬筆昇段級検定試験、師範試験

実施時期 春秋2回（漢字－4月、10月 かな－5月、11月 硬筆－6月、12月）

対象 一般

受験者数 春季漢字 226名、春季かな 107名、秋季漢字 222名、秋季かな 91名、春季一般硬筆 99名、秋季硬筆一般 86名

● 学生毛筆・硬筆昇段級検定試験

実施時期 毛筆－春秋2回（5月、10月）、硬筆－春秋2回（6月、11月）

対象 学生

受験者数 春季毛筆 1829名、春季硬筆 1092名、秋季毛筆 1951名、秋季硬筆 1106名

● 師範試験

(イ) 一般毛筆漢字師範試験（4月、10月）4月の受験者数 14名、10月の受験者数 9名

(ロ) 一般毛筆かな師範試験（5月、11月）5月の受験者数 3名、11月の受験者数 1名

(ハ) 一般硬筆師範試験（6月、12月）6月の受験者数 8名、12月の受験者数 10名

③ 審査編集

上記に関連して、作品審査並びに機関誌の編集作業を行った。

- 5月3日（金） 一般毛筆春季漢字部検定試験審査
- 5月31日（金） 一般毛筆春季かな部検定試験審査
- 6月4日（火） 学生毛筆春季検定試験審査
- 7月5日（金） 一般硬筆春季検定試験・師範試験審査
- 7月9日（火） 学生硬筆春季検定試験審査
- 11月1日（金） 一般毛筆秋季漢字部検定試験・師範試験審査
- 11月5日（火） 学生毛筆秋季検定試験審査
- 11月29日（金） 一般毛筆秋季かな部検定試験・師範試験審査
- 12月3日（火） 学生硬筆秋季検定試験審査
- 12月24日（火） 一般硬筆秋季検定試験・師範試験審査

④ 段級位認定証の発行

【学生毛筆認定証】

	10級～1級	準初段～八段	準特待生	特待生	合計
春季	847	929	31	22	1829
秋季	880	1005	36	30	1951

合計	1727	1934	67	52	3780
----	------	------	----	----	------

【学生硬筆認定証】

	10級～1級	準初段～八段	準特待生	特待生	合計
春季	518	553	11	10	1092
秋季	495	578	20	13	1106
合計	1013	1131	31	23	2198

【一般毛筆認定証（半紙漢字）】

	10級～1級	準初段～八段・準師範	師範	合計
春季	32	126	4	162
秋季	32	120	4	156
合計	64	246	8	318

【一般毛筆認定証（半紙かな）】

	10級～1級	準初段～八段・準師範	師範	合計
春季	24	47	1	72
秋季	18	40	0	58
合計	42	87	1	130

【一般毛筆認定証（芸術漢字）】

	6級～1級	準初段～七段	佳士、能士、妙士、 特士、範士、成家	合計
春季	8	40	8	56
秋季	9	40	11	58
合計	17	80	19	116

【一般毛筆認定証（芸術かな）】

	6級～1級	準初段～七段	佳士、能士、妙士、 特士、範士、成家	合計
春季	4	24	5	33
秋季	6	20	5	31
合計	10	44	10	64

【一般硬筆認定証】

	10級～1級	準初段～五段・準師範	師範	合計
春季	34	57	3	94
秋季	25	51	3	79
合計	59	108	6	173

師範位以外の認定証は各教室において指導者より授与した。

⑤ 書芸中道・硬筆中道師範証授与式

日時 令和2年3月29日（日）午前10時から晴嵐館錬心講堂において毛筆漢字師範合格者8名、毛筆かな師範合格者1名、硬筆師範合格者6名に師範証を授与する予定だったが、新型コロナウイルスの影響により、延期することとした。

⑥ 競書優秀作品展示

毎月の競書作品および検定試験受験作品の中から選ばれた最優秀作品（一般から学生まで、毛筆および硬筆の作品）を随時掛け替え展示し、書道を志す者の作品制作の指針とした。

2. 書道公募展事業（コンクール）

子どもから書道を専門とする書家まで、年齢や技術等に応じた展覧会を開催し、一般に公募し作品審査を経た上で公開することで、学校における書写書道教育の発展の一助とするとともに、書道に携わる者を育成し、もって書道文化の向上と普及発展に寄与することを目的として実施している。

対象者として、書道実技向上を目指す者から作品を募集し、書道に関心のある者に対して展示公開している。

令和元年度は、次の(1)～(5)の展覧会を実施した。

(1) 第36回中道書法展

この展覧会は、書家ならびに書法研究に志す作家に広く開放し、書道作家の育成と書道文化の向上と普及発展に寄与することを目的とする。古典書法を重んじ各自の自由な発想で創造表現した作品を募集するものである。あわせて、優れた作品・作家を顕彰し、書道技能並びに指導者の指導技能向上をはかる。

書道の作家をめざす全国の満15歳以上の方々から作品を年1回募集。作品の大きさは縦137センチの大きさ(半切)。題材は自由。優れた作品を応募した者には賞を贈り表彰する。作品の募集は、晴嵐館ホームページサイト、『書芸中道』誌、館報などにより、広く一般に求めた。

作品の審査は、実績と経験を兼ね備えた書道の専門家(本展覧会に優秀な作品を応募し、作品の優劣の判断ができると認められた者)があたる。審査員の選定にあたっては、前回展の出品実績を見て、書道の専門家として審査員資格のある参事・幹事・常任委員から14名を選任した(出席審査員は11名)。審査方法は、〇×式の投票による。高得点の作品から一定の入賞率をかけた賞数に割り当てた。審査の基準は、次の五つの観点により的確に判断した。①線質・用筆、②用墨、③構成・余白、④誤字・脱字、⑤落款(押印も含む)

入賞入選した優秀な作品は、専門の委託業者が軸装に表装し、名古屋市博物館展示室に展示。出品目録を作成(600部印刷)し、特に優秀な入賞作品は、出品者名、優秀作品を掲載し一般に配布。また、成績並びに優秀作品を『書芸中道』9月号、晴嵐館ホームページサイトでも公表。ビヨンド2020の認証を受け、東京オリンピック・パラリンピックの応援を通じて日本の書道文化を発信した。

後援を愛知県教育委員会および名古屋市教育委員会に仰ぎ、展覧会終了後に事業の詳細等を報告した。次年度の会場申請を12月6日におこなった。

会 期 令和元年8月6日(火)～11日(日)

会 場 名古屋市博物館 3階ギャラリー

対 象 一般から公募 (15歳以上)

応募点数 公募作品71点と委嘱作品88点

展示点数 応募・委嘱作品159点、賛助作品2点、遺作1点、特別展示7点(晴嵐作品5点、中国拓本2点)の合計169点

入場者数 3,304名

後 援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

審査会 令和元年6月30日(日)午後1時～3時(11名の審査員により審査)

表彰式 令和元年8月11日(日)午後3時15分～45分、名古屋市博物館ギャラリー 第4展示室において81名を表彰

(2) 第49回全国教育書道展

この展覧会は、中京大学との共催(平成25年から)により、全国の幼年～高校生から書写書道作品を年1回募集し、作品審査を経た上で一般に公開することにより、学校における書写書道教育の発展の一助とするとともに、書道に携わる者を育成し、もって書道文化

の向上と普及発展に寄与することを目的とする。

作品の大きさは半紙で、課題は自由。優れた作品を応募した者には賞を贈り表彰する。作品の審査は、実績と経験を兼ね備えた書道の専門家（師範や他会の審査員）による。審査においては、幼年・小学生、中学生、高校生の3部門に分け、出品規定に照らして、①各学年にふさわしい適切な字句・題材 ②誤字脱字 ③各学年にふさわしい線質・用筆 ④用墨・構成・余白 ⑤名前の書き方などを考慮し判断する。入賞した全作品を台紙に貼り、名古屋市博物館展示室に展示。入賞者名および優秀作品の写真版は、入賞者名簿に掲載し一般に配布。本館発行の機関誌「中道」に掲載。ホームページでも公表。

4月上旬より、近隣の教育委員会（愛知県、岐阜県、三重県、一宮市、春日井市、岐阜市、江南市、津市、豊明市、豊田市、名古屋市、四日市市）と中日新聞社に後援名義使用並びに賞状交付依頼。内閣総理大臣、文部科学大臣、衆議院議長、参議院議長、愛知県、岐阜県、三重県の三県の知事・県議会議長、中京大学学長、名古屋市長、江南市長に賞状交付依頼を申請し、展覧会終了後、事業の詳細等を報告した。

作品募集は幼年、小学生、中学生、高校生を対象とし、要項を4月中旬に関係各所に送付。機関誌ならびにホームページサイト、「書道美術新聞」「広報こうなん」に掲載し、広く一般に作品を募集した。募集作品の審査にあたっては、過去3年間の出品実績のある団体指導者の中から19名を選考し審査員を依頼した。作品は全国から6813点が応募され、7月7日に作品審査会を行った（出席審査員は11名）。応募総数の15%（1027点）の入賞作品を決定し、出品者、指導者、所属小中高校に成績を通知。ホームページサイトにも上位入賞者（126名）の氏名と作品18点を掲載した。中日新聞各地方版、尾北ホームニュースに上位入賞者の氏名を掲載。また、成績優秀者の多い団体に団体優勝を授与した。展覧会は8月6日（火曜日）～11日（日曜日）。名古屋市博物館ギャラリーに入賞作品を展示。展示にあたっては、作品を台紙に貼り、壁面展示した。前年度上位三賞の受賞者を招待とし、作品6点を軸装展示。会場入り口では上位入賞者の作品写真と入賞者全員の氏名を記載した名簿（2000部印刷）を作成し配布。

また、ビヨンド2020の認証を受け、東京オリンピック・パラリンピックの応援を通じて日本の書道文化を発信した。

展覧会終了後は、出品作品等を返却し、賞状交付並びに後援名義使用した官公署に終了報告書を送付。次年度の会場申請を12月6日におこなった。

会 期 令和元年8月6日（火）～11日（日）

会 場 名古屋市博物館 3階ギャラリー

対 象 幼年、小学生中高校から公募

応募点数 6,813点

展示点数 入賞作品1027点と招待作品6点の合計1033点

審査会 令和元年7月7日（日）、11名の審査員により審査

表彰式 令和元年8月11日（日）、名古屋市博物館地下講堂において126名を表彰

賞品賞状授与 8月10日（土）～11日（日）の2日間、入賞者に賞品と書状を会場内で授与。

（3）第44回晴嵐館師範選抜書展

この展覧会は、晴嵐館認定師範位取得者による斬新かつ創意工夫ある作品を一般に公開し、書道の啓蒙、書道文化の発展に寄与することを目的として開催している。書道の専門家として一定レベルに到達した「師範」による展覧会で、一般市民への書道文化の振興と発展をめざす。

晴嵐館認定の書道「師範」位を持つ指導者の中から出品者を選抜し、年1回名古屋市民

ギャラリー栄に展示。書道を愛好する一般市民に対して、小さな書道作品（半紙の大きさ以内の小作品）を公開。漢字、かな、漢字仮名交じり書、硬筆など書道のさまざまな分野の作品。一般の観覧者には作品のアイデアと制作意欲を持つことができるよう、鑑賞方法、作品の見方を会場内に掲示し、出品者による作品の解説と文字の読み方（釈文）も示した。作品の表装も、家屋のさまざまな場所のインテリアとして飾ることができるような意匠で実用的にデザインされたものを使用。作品の規格は、半懐紙(24×36cm)以内～カルタ(6×9cm)以上の本紙寸法、作品の部門は漢字・かな・調和体・篆刻・ペンなど自由とした。

令和元年度は、現在登録の師範 181 名の中から指導的立場でありかつ活動のめざましい師範 133 名を選抜し、作品を募集した。うち 61 名が作品を応募。参加料は一人 3000 円。展覧会の案内は、出品者にはポストカードを配布、一般観覧者には機関誌ならびにホームページサイトに掲載。作品の展示は 9 月 9 日、作品の表装を請け負う専門の業者を中心に軸作品、額作品などを展示。前年度師範合格者を明示した。毎日、展示責任者と会場受付を各 1 名配備。会場内には作品鑑賞の方法、作品に対する出品者による説明あるいはコメントなども置き、観覧者の便をはかった。また、出品作品の目録（600 部印刷）を入り口で観覧者に配布。次年度の会場申請を 9 月 10 日に行った。

会 期 令和元年 9 月 10 日（火）～15 日（日）

会 場 名古屋市民ギャラリー栄 第 2 展示室（名古屋 栄 中区役所ビル 7 階）

出品者 指導者 61 名の選抜作品展示

入場者数 577 名

(4) 第 37 回中道書き初め展

この展覧会は、書き初めを通じて、学童ならびに指導者の技能向上をはかり、書道文化の普及と書写書道教育の発展に寄与する。

全国の幼年～高校生から、指定の課題の書写書道作品を年 1 回募集。作品の大きさは、縦 64 センチの書き初め用紙で、課題は学年別の同一課題。優れた作品を応募した者には賞を贈り表彰する。作品の審査は、実績と経験を兼ね備えた書道の専門家（師範や他会の審査員）による。審査においては、学年別に分け、出品規定に照らして、①各学年にふさわしい線質・用筆 ②基本点画（とめ・はね・はらい・おれ・まがり・そり） ③用墨・構成・余白 ④誤字・脱字 ⑤学年・名前の書き方などを考慮し判断する。入賞した全作品を台紙に貼り、江南市民文化会館 1 階展示室に展示。一般の観覧者には、作品の見方についてのチラシを配布。入賞者名および優秀作品の写真版は、機関誌『中道』に掲載。ホームページでも公表。ビヨンド 2020 の認証を受け、東京オリンピック・パラリンピックの応援を通じて日本の書道文化を発信した。また、『中道』誌に 30 年間連載の齋木真沙子氏による挿画から 56 点を選び展示した

会 期 令和 2 年 2 月 8 日（土）

会 場 江南市民文化会館 1 階展示室

対 象 幼年、小学生、中学生、高校生から公募

応募点数 1657 点

展示点数 入賞作品 323 点、中道誌連載の齋木真沙子氏挿画 56 点

審査会 令和 2 年 1 月 13 日（月・祝）、4 名の審査員により審査

表彰式 平成 2 年 2 月 8 日（土）、同会館 2 階会議室において 57 名を表彰

(5) 晴嵐館書道教室作品展

毛筆教室、篆刻教室等の受講者の制作作品を年 1 回（3 月）江南市民文化会館展示室に展示。教室における学習成果の発表の場であり、書道を愛好する一般市民に作品を公開す

ることで、書道教育・書道芸術の向上をはかった。出品料は一般 3000 円、学生は無料。

会 期 令和 2 年 3 月 14 日 (土)・15 日 (日) に開催予定だったが、令和 2 年 4 月に延期することとした。

3. その他

(1) 図書資料等の貸出

晴嵐館が収蔵する図書資料を一般に貸し出し、書道を研究する一般市民又は研究者の技術的・理論的向上を図る。

中国や日本の書道の名品名跡、字典辞書、実技技法書、理論書、その他美術文学にわたる書道の周辺の書道に関する様々な図書文献約 4000 冊、映像資料等を、一般の図書館と同様に貸出す(館内での閲覧を含む)。対象者は書道に関心のある者、書道研究者。令和元年度の貸出実績は 60 件。

(2) 筆供養

本事業は、毎年 1 回 7 月に筆供養を厳修するものである。晴嵐館の庭園の一角にある大池晴嵐筆による「筆塚」碑の前で、使い古しの筆を供養し参列することを通じて、書道用具に対する感謝の念と道具を大切に扱う心を養い、書道技術上達を祈念する。毎年 100 本近くの筆が一般から広く献納される。対象は筆の供養を望む者。

令和元年度は、7 月 6 日 (土) 午前 9 時 30 分より筆供養を厳修した。供養の導師は真言密教系の僧侶による。祈祷と呪文を唱えながら使い古しの筆を燃やした。今年は 122 本の筆が広く一般から献納された。供養料は無料。

(3) 賞状交付等(書道催事支援事業)

本事業は、地域における書道教育または書道振興を目的とする書道催事に対し、公益財団法人晴嵐館の後援名義使用・「晴嵐館賞」賞状交付・催事案内公告等をおこない、地域団体の書道展覧会、個展、書道イベント等の催事など、書道活動の振興を図り、書に携わる者を支援するものである。

賞状の交付は、書道実技向上を目的に書道愛好家を対象として地域の書道団体等が地元地域で開催する書道展および書道催事。催事の規模にもよるが、一つの展覧会に対して交付は 20 枚まで。

後援名義は、書道の普及発展ならびに書道実技向上を目的に、書道指導者および書道愛好家を対象として、地域の書道団体等が地元地域で開催する者に対してその使用を認めている。

このほか、機関紙・ホームページサイトによる支援広告をする。令和元年度は 1 件の申請があり、事業規約に照らして支援した。支援した事業は次のとおり。

- 第 67 回多度大社奉納書き初め大会に対し後援並びに晴嵐館賞 20 名表彰 (2 月)

(4) 書道記念事業

法人設立あるいは展覧会等の周年記念時に、書道に関する様々な出来事等をテーマとして企画する行事の開催を通じて、書道文化の継承者の育成を図り、もって書道文化の振興に寄与する。

- 書芸中道 600 号発行

書芸中道創刊 600 号を記念し、誌上はがき展を実施し、はがき寸法の作品を募集した。『書芸中道』3 月号 12~25 ページに作品をカラー刷り掲載した。

応募点数 タテ作品=222 点、ヨコ作品= 54 点、合計 276 点

(5) 施設の貸与

書道に関する研究会等の集会を開催しようとする個人又は団体に対して、晴嵐館の多目的研修施設を貸し出し、書道に携わる者の活動を支援する。書道研修施設として建設した「錬心講堂」は、一般の書道愛好者または書道団体が書写書道教育に関する集会、研究会、作業などに利用できる。鉄筋コンクリート造り 高殿式平屋（建築面積 138.234 平米、建物 119.756 平米のうち、研修室 75 平米、図書収蔵庫 12 平米、事務室 16 平米）。利用期間は、毎週木曜日を除き随時利用可。定員は約 40 名まで。使用料は 1 時間当たり 1000 円。利用者を館報、ホームページサイトで募ったところ、1 件の利用があった。

(6) 研究成果の公表（書道および書道教育に関する研究）

書論、書道史、書道文化を含む書道関連の領域を研究し、その研究成果を定期的に公表することを通じて、書道の指導者および研究者の資質向上を図ることを目的とする。

所蔵作品や収集資料を展示公開するための基礎的研究とは異なり、書論、書道史、書道文化を含む書道関連領域を研究し、その研究成果を機関紙を通じて公表する。令和元年度も、「禅語研究」、「漢文研究」を 2 名の専門家に委託し、その研究成果を機関誌「書芸中道」に毎月連載した。

- 「禅語研究」名古屋大学名誉教授・文学博士 田島毓堂氏
- 「漢文研究」愛知教育大学・皇学館大名誉教授 野村茂夫氏

(7) 広報事業（情報公開・事業の情報提供）

晴嵐館が主催する事業のほか、書道に関する有益な情報を、機関紙、館報、ホームページ等により公開提供する。

① 機関誌

- 『中道』651号～662号
発行 B5版 24ページ 毎月 25日 2114部/月（前年比+34部）
内容 教育書道（毛筆・硬筆）研究、事業案内、審査結果・成績・優秀作品掲載
対象 学生（幼年～高校生）
- 『書芸中道』590号～601号
発行 B5版 24ページ 毎月 25日 545部/月（前年比-46部）
内容 芸術書道（毛筆・硬筆）研究、事業案内、審査結果・成績・優秀作品掲載
対象 一般（高校生以上）

② 館報

晴嵐館の活動は、前記の機関紙においても広く公告しているが、事業や財務の公告は一元的に行われていない。かつて「晴嵐館だより」として平成3年から平成11年まで刊行していたが、その後はホームページに依存して、紙媒体による公告紙の発行に至っていなかった。公益財団法人移行認定を受け、「館報」を年3～4回発行することとし、ネットによる情報発信とともに紙媒体での情報提供をしている。

掲載内容は、事業計画・予算、事業報告・決算、各種事業案内、会員募集、寄附募集など。

- 第27号 令和元年8月10日発行（150部）
- 第28号 令和2年1月10日発行（150部）
- 第29号 令和2年3月15日発行（150部）

③ ホームページサイト

晴嵐館ホームページサイトは、平成13年8月に開設して以来、晴嵐館の活動を公開発信してきた。機関紙では掲載しきれない最新の情報や過去のデータ等を掲載し、今までに蓄積された情報をいつでも見ることができるよう公開している。令和元年度も事業案内、作品募集、成績発表、公告（事業計画、収支予算、事業報告、収支決算、財産目録、役員名）などの最新情報をきめ細かに更新した。また、フェイスブックも開設し、書道ならびに庭園に関する情報を発信。ホームページアドレスは <http://seirankan.blush.jp>。

④ 学びネットあいち

愛知県生涯学習情報システム「学びネットあいち」を利用して、講座・講習会、イベント、資格、教材などの情報を発信した。

⑤ NOPODAS

非営利法人データベースシステム「NOPODAS」を利用して、基本情報、組織情報、事業内容、財務・会計、広報・お知らせ、寄附募集などの情報を発信した。

⑥ 愛知の博物館お出かけガイド

愛知県博物館協会が運営する「博物館お出かけガイド」を利用して、展示案内の情報を発信した。

⑦ 広報こうなん

江南市の広報誌「広報こうなん」にはたらきかけ、全国教育書道展の開催要項を掲載した。

⑧ 尾北ホームニュース

中日新聞傘下の地域情報誌「尾北ホームニュース」にはたらきかけ、全国養育書道展、書き初め展の地域入賞者名を掲載した。

⑨ 中日新聞

中日新聞の後援を得て、全国教育書道展の成績を「中日新聞」朝刊の各地域版に掲載した。

⑩ 書道美術新聞

書道業界紙「書道美術新聞」(美術新聞社)にはたらきかけ、全国教育書道展の募集広告、師範選抜書展の出品者名を掲載した。

⑪ 愛知健康マイレージ事業

県民の健康増進協力店として登録し、広報活動の一環として、展示室観覧料2割引き、粗品進呈をおこなうこととした。

Ⅲ 物品の販売事業（収益事業1）

書道芸術、書道文化の向上の一環として、書道に関する書籍、教材、書道用具等を販売した。

1. 書籍（図書）

書道研究・学習に有用な書籍図書を紹介販売した。

2. 用具、書道教具教材等

書道学習に必要な用具などの販売をおこなった。

3. 硬筆規定用紙

毎月の硬筆課題、検定試験の練習用紙・清書用紙として、硬筆規定用紙を印刷販売している。用紙の種類は次のとおり。

- A用紙 B 6版 タテ罫線 5本 一般硬筆 2級以上A課題、子供広場用
- Aかな用紙 B 6版 タテ罫線なし 一般硬筆かな 2級以上A課題用
- B用紙 B 6版 5文字×3行 15マス 2面 一般硬筆 3級以下B課題、学生用
- C用紙 B 5版 タテ罫線 8行 一般書翰文、書歴用

4. 刊行物

なし

IV 管理部門

1. 理事会・評議員会・監査会

(1) 監査会

日 時 平成31年4月21日(土) 午前9時～11時30分
場 所 晴嵐館 事務室
出 席 監事2名 代表理事1名
内 容 1. 監査の概要説明
2. 理事の業務執行状況の説明
3. 平成30年度事業報告書の説明
4. 平成30年度財務諸表および収支報告書の説明
5. 監事の意見聴取
6. 監査報告書署名捺印

(2) 第15回理事会

日 時 令和元年5月5日(日) 午後2時～3時30分
場 所 晴嵐館 錬心講堂
出 席 決議に必要な出席理事の数3名、出席5名、欠席0名、監事出席1名
議 事 第1号議案 平成30年度の事業報告書の承認について
第2号議案 平成30年度の計算書類(貸借対照表、正味財産増減計算書)及び
附属明細書、財産目録の承認について
第3号議案 監査報告
第4号議案 定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の決議につ
いて
第5号議案 その他 なし

(3) 第8回定時評議員会

日 時 令和元年5月26日(日) 午後3時～4時30分
場 所 晴嵐館 錬心講堂
出 席 決議に必要な出席評議員の数6名、出席8名、欠席3名、理事出席1名、監事
出席1名、書記1名
議 事 第1号議案 平成30年度の事業報告書の承認について
第2号議案 平成30年度の計算書類(貸借対照表、正味財産増減計算書)及び
附属明細書、財産目録の承認について
第3号議案 その他 なし

(4) 第16回理事会

日 時 令和2年3月1日(日) 午後2時～3時
場 所 晴嵐館 錬心講堂
出 席 決議に必要な出席理事の数3名、出席5名、欠席0名、監事出席1名
議 事 第1号議案 令和2年度の事業計画、収支予算、資金調達および設備投資の見
込みについて
第2号議案 会員の承認について
第3号議案 評議員選定委委員の選任について
第4号議案 その他 なし

2. 新しい寄附金税制と寄附金募集

本財団は「特定公益増進法人」ではなかったが、公益法人制度改革における公益財団法

人への移行により、新しく平成23年6月22日に創設された「公益法人等への寄附金に係る税額控除制度等」が適用されることとなった。平成24年6月1日に所得税控除申請書類を提出し、平成29年6月6日までの証明書を受けていたが、5年が経過したので再申請をし、平成34（令和4）年6月16日まで5年間の証明を受けた。所得税控除の適用を受けられることで、寄附金の募集を積極的におこなった。

寄附件数は次のとおり。

- 平成31年4月1日～令和元年12月31日 36件（前年比+14）
- 令和2年1月1日～3月31日 136件（前年比+1）

3. 会員募集

会員規程に照らし会員募集をおこなった。令和元年度、会員の入会申し込みは、次のとおり。

- 維持会員 なし
- 賛助会員 なし

4. 業務執行体制、内部管理体制

(1) 代表理事の業務執行報告

大池代表理事は、週に3日程度の間隔で業務の確認と執行をおこなった。業務内容は、事業事務、経理事務、管理事務、全般にわたり、令和元年5月5日、令和2年3月1日開催の理事会において、自己の職務の執行状況を理事会に報告した。

(2) 業務執行理事の業務執行報告

松川業務執行理事は、月に2回程度の間隔で業務の確認と執行をおこなった。令和元年5月5日、令和2年3月1日の理事会において、自己の職務の執行状況を理事会に報告した。

(3) 職員

常勤職員は3名で、次のとおり職務分担をしているが、お互いにまたがるものについてはその限りではない。

- 大池圭子（管理担当・・・施設・設備・顧客・経理管理、指導・教育）
- 大池久美子（庶務担当・・・事務・用務・文書・役員管理、厚生、事業）
- 大池茂樹（学芸担当・・・作品・資料・図書文献管理、調査研究、企画）

(4) 非常勤事務職員（パート3名）

非常勤職員の事務業務は次のとおり。接客・顧客管理・業者対応・金銭等收受・経理・データ入力・受付・準備・記録・整理・電話対応・文書管理・連絡・清掃・その他事務業務に発生するさまざまな業務にあたった。

(5) 非常勤専門委員（審査・編集委員）

競書、検定試験の作品審査ならびに機関誌編集委員は次のとおり。各機関誌につき、毎月1回従事した。

- 阿島春雪（中道）
- 大池青岑（中道・書芸中道・校正・課題選定）
- 大池龍子（中道・書芸中道）
- 倉田朝華（書芸中道）
- 新家峰石（中道）
- 新田双桃（中道・書芸中道・課題選定）
- 山本泉歩（中道・課題選定）

(6) 競書、検定試験審査補助員

月例競書、検定試験の作品審査の補助員として委嘱した。

- 川崎尚華（書芸中道）
- 浪打靄舟（書芸中道）

(7) 教室講師は次のとおり

- 大池青岑（毛筆教室 日展会友・中京大学教授）（月 3 回）
- 岡野楠亭（篆刻教室 日展会員）（月 1 回）

5. 福利厚生

職員の福利厚生および災害補償に対応するため、労働保険に継続加入した。

6. 団体加入

(1) 小牧法人会

地域における法人情報を収集するため、小牧法人会に継続加入した。今後の運営の参考とするため、職員を派遣した。

- 小牧法人会第 8 回定時総会

日 時 令和元年 5 月 29 日（水）午後 2 時～5 時

場 所 ホテルプラザ勝川

内 容 総会、記念講演会「国税は今」

派 遣 1 名

- 小牧法人会江南支部 改正税法研修会

日 時 令和元年 9 月 25 日（水）午後 1 時 30 分～3 時 30 分

場 所 江南商工会館 1 階ホール

内 容 相続税と贈与税、改正税法のポイント、「e-Tax」について、ほか

派 遣 1 名

(2) 愛知県博物館協会

愛知県の博物館情報を収集するため、愛知県博物館協会に継続加入した。今後の運営の参考とするため、職員を派遣した。

- 愛知県博物館協会総会

日 時 令和元年 6 月 19 日（水）午後 2 時 45 分～3 時 40 分

場 所 愛知芸術文化センター12 階 アートスペース A

内 容 総会、記念講演会「「未知の知」に触れる—ユニバーサル・ミュージアムとは何か」

派 遣 1 名

(3) 江南市社会福祉協議会

地域福祉の推進に努めるため、江南市社会福祉協議会に継続加入した。

(4) 豊道春海顕彰会

大池晴嵐の師、豊道春海の事績を顕彰するため、豊道春海顕彰会に継続加入した。

7. 内部規程等の整備

なし

8. 経理および税理士の関与

年度当初、前年度の決算書類等は代表理事が作成した。令和元年 5 月 24 日、平成 30 年度の事業にかかる事業税（均等割）等につき菱田純次税理士事務所（名古屋市昭和区）を通じて小牧税務署、東尾張県税事務所、江南市役所に申告納税した。

源泉所得税の法定調書は、e-TAX を利用して書類作成、令和 2 年 1 月 6 日データ送信提出した。

なお、令和元年度中の経理伝票の作成と経理データの入力は主に非常勤職員が日々担当し、固定資産の運用と管理、次年度の予算書類作成、税理士への中間報告は代表理事が担当した。

また、資産を健全に管理し、金融機関の破綻に対応するため、財産目録に記載のとおり基本財産預金ならびに特定資産預金、通常預金を分散管理した。

取引金融機関は次のとおり

- 大垣共立銀行 江南支店
- 岐阜信用金庫 東江南支店
- 三菱UFJ信託銀行 名駅支店
- ゆうちょ銀行 江南支店
- 三菱UFJ銀行 江南支店
- JA愛知北 布袋支店
- 愛知銀行 江南支店
- 大和証券 名古屋駅前支店、大和ネクスト銀行
- 野村証券 岐阜支店
- 岡三証券 名古屋支店

9. 特定資産等の管理

- 岐阜信用金庫東江南支店（江南市今市場町）と契約（平成 24 年 4 月 20 日）の貸金庫を、土地・建物に関する書類、銀行定期預金通帳等の安全な保管場所として継続利用している。

10. 役員登記

なし

11. 第三者機関による立ち入り検査

なし

12. 行政庁等への報告、届出

(1) 平成 31 年度事業計画書（事業計画書、予算書等）

平成 31 年 3 月 4 日提出の事業計画書は、5 月 7 日に行政庁の手続き処理が完了した。

(2) 平成 30 年度事業報告（事業報告書、決算書類等）

令和元年 5 月 5 日の第 15 回理事会に諮り、5 月 26 日の第 6 回定時評議員会で承認ののち、5 月 27 日付で公益法人インフォメーションのシステムから電子提出した。10 月 3 日に行政庁の手続き処理が完了した。

(3) 令和 2 年度事業計画（事業計画書、予算書等）

10 月ころから準備策定し、令和 2 年 3 月 1 日の第 16 回理事会に諮り、3 月 2 日に電子提出した。

13. 第三種郵便物の定期調査（日本郵便株式会社）

- 令和元年 7 月 26 日、『書芸中道』の発売部数及び発売状況報告書の中川郵便局へ提出した。
- 『中道』は定期調査の条件を満たしているため、3 年に 1 回の調査報告

14. 建物（晴嵐館、錬心講堂、その他）等の管理

(1) 防犯・防火

昭和60年（1985年）の不審者侵入による錬心講堂火災後、セコム株式会社とセキュリティー契約を継続し、休日および夜間の外部からの侵入報知、火災報知による防犯防火を図っている。

(2) 施設設備の補修、改修、美化

令和元年度は、次の通り施設設備の補修、改修、美化を図った。

- 南門障壁の塗装剥離の補修
- 本館屋根雨漏り工事をおこなった。明り取りの天窓を塞いで、天井照明を現代風のスポットライトやダウンライトにした。
- 本館展示室南壁の水漏れ亀裂を補修した。
- 高圧洗浄機による窓ガラス磨きと回廊洗い（年2回）
- 社団法人江南市シルバー人材センターと清掃等業務の契約を継続し、施設設備および庭園の美化を図った。

(3) 庭園の整備、美化保全

庭園除草、樹木消毒、樹木剪定、植樹、池魚管理その他を随時おこない、庭園の美化を図った。

- 除草・・・草ひき（毎月曜日2時間）、除草剤散布（4月～10月 月1回）
- 除虫・・・消毒散布（5月）、日常は噴霧器による
- 清掃・・・池（7月）、地蔵・筆塚、庭園灯、南門、南側道路、錬心講堂、落葉
- 樹木剪定・・・随時。庭園専門業者（庭園師）による枝打ち（3月）
- 植樹植草・・・シバ、スギゴケの整備。茶花の植樹を進めている。
- 打ち枝、枯葉の廃棄・・・通常は堆肥にし、3月は専門業者に処分依頼
- 池管理・・・定期的に池の水替え、ブラシかけ、水底の藻や水面の枯葉除去、鯉の餌やり成育につとめた。大小25匹遊泳。
- ハスの植え替え（3月、6種18鉢）
- 庭木の名称の表示（木札に墨書き、針金で樹木に着ける）
- 表札プレートの修繕
- 案内板の庭園図、建物配置図のリフォーム
- 駐車場ベンチの修繕（ヤスリ、ニス塗り、文字部分のペイント）
- 地蔵の前掛け交換
- 庭園内通路の砂利整備、水はけ改良
- 采薇苑の整備（平和の柿、筆柿、トロロアオイ、大王松、花桃、菊桃、ナンジャモンジャ、ブラシの木、北山杉、五色椿）